

KOKUSAI

★発行：国際運輸株式会社★

VOL.17

年金について



会長

前田一彦

遠く離れた欧州の一国ギリシャの破綻で世界の経済も瞬時にして影響を受けるように、世界各国の経済は国境を越えて密接に繋がっています。日本の場合、直ぐ円高に動かし、株価は下落します。世界中で経済に不安要因を抱える国は少なくありません。サブプライム・ローンの崩壊に始まった米国の金融界も大荒れで、地方の銀行など数百に及ぶ倒産が報道されています。政府資金による救済で恐慌までには到りませんでした。全損失は8京円に及ぶと言われています。保険などを使った金融商品も世界各国にばら撒かれており、その損害も莫大なものになっています。我が国の財政も最悪ですが、大手企業の生産性は少し良くなってきたようです。ただ、中小企業はかなり厳しく求人倍率も下がったまま推移しています。

今後この様な情勢の中で、右肩上がり
の経済成長を期待することが出来る
でしょうか。その上少子化が進み、高
齢者が増えています。

以前は、公的年金制度は若くして元
気なうちにお金を積み立てて年を取
ったら、毎月少しずつ受け取ると言う
仕組みでした。それが賦課方式に変わ
って、現役世代から保険料を徴収し、
高齢者に年金を支払うという方式に
変わりました。はつきり言って、もう
今の制度では無理です。

1995年には現役で働く人の
6人で1人のお年寄りを支えていた
のに、今は現役世代3人で1人を支え
ていますが、将来は2人で1人を支え
なければなりません。

経済成長率が将来伸びなければ、積
立金は数10年後には枯渇してしま
います。年金資金が給付以外にも使わ
れ、役人の天下り先の事業に利用され
ていました。グリーンピア等その代表的
なものです。巨額な資金を使った施
設はほとんど利用されず、二束三文で
売却されましたが、驚いた事にその責
任を誰も取っていない事です。
悪徳政治家と役人の共同謀議としか
言いようがありません。

今後、支払った積立金の利用について
は国民が十分監視する必要があるま
すが、それらをきちんとできる政治
家、政党を選ぶべきでしょう。

但し、将来に亘って現在の支給水準
を維持できるかどうか、ある程度下が
っても年を取って年金が必ずもらえ
ることは安心に繋がります。それと
同時に、年を取ってから少しでも楽に
生活できるように自己防衛の手段を
考えなければなりません。所得の中
から少しでも将来に備えて貯える事
も必要でしょう。国の制度だけに頼る
ことはもう無理だと思います。

1、2年後は消費税も間違いなく上が
ります。国民の医療や介護等、財源が
払底して消費税の増加分が絶対必要
だと思えます。

今までに消費税のアップを実施さ
れるべきだったと思うのですが、政権
の獲得のため、又はその維持の為、国
民に問うことをしなかった日本の
政党のだらしない今の現われと思う
のですがどうでしょうか。

但し、社会的な弱者や低所得者に
対しては十分な配慮がなされるべき
と思えます。

各自が将来についての考えをしつ



かり持って、自分と家族のため生活設計をきちんと立てておくべきだと思います。

会社も利益を出さなければ福利厚生
の資金を捻出することができません。
全員一丸となって会社の経営にあた
らなければなりません。各自が日々
の業務に責任を持ち顧客の満足度を
より上げる努力が必要です。
皆さんの奮闘を期待しています。

『自分に勝つ』

常岡一郎という人がいた。明治三十二年生まれ。慶応義塾大学在学中に結核になり、学業を捨てて闘病、求道の生活に入った。「すべてのものには中心がある。その中心からずれたとき、人間は、家庭は、個人は、集団は、企業は、国家は、人類は、みんな苦しむ。課されていることを中心にするのだ。」

この真理を体得し、月刊誌「中心」を発行。主幹として五十年間、毎号執筆。また中心同士会を結成し、毎月全国主要都市で後援会を開催し続けた。そういう人である。

この常岡氏に次の言がある。「勝つ。この勝ち方にもいろいろある。喧嘩に勝つ。やせがまんや屁理屈で勝つ。それに勝つても他人は喜ばない。人を苦しめる事になる。これでは人の心も暗くなる。天、人、我、共に喜ぶ。そんな勝ち方は「われに勝つ」ことである。この場合のわれとは、何であろうか。それは自己の我執である。わがままである。きままである。朝寝、無精、屁理屈・・・である。これに打ち克つて朝も早く起きる。人のいやがることをいそいそと果たす。わがままを捨てて勤めきり、尽くしきる。そうして人を喜ばせる。これが「われに勝つ」ことである。」



ハイブリット Hybrid



社長

前田和隆

新車で購入して間もないころから故障を連発していたエルグランドのエアコンが、3月の半ばに完全に効かなくなり、修理の見積りに10万円以上掛かると聞かされた時、こういう時代なのだから出来るだけ長く乗らなくてはと思っていた私の心が、一気に乗り換えの方向に転じました。いろんな荷物を積み込む事が多いので、それまでのようなボックスタイプが便利ではあるのですが、大きくて車重もかさむため、どうしても燃費的には不利。サイズダウンしてハイブリッドを選択することで、経費の節約と運送会社としての社会的アピールにもなるのではと思い、今回はトヨタのエスティマ・ハイブリッドを選びました。

実際に乗ってみて、その燃費の良さと機械としての完成度はさすがにトヨタ。確かにこのところ世間を騒がせている一連のリコール問題は、世界一の看板を掲げてからの

慢心が無かったとは言い切れないとは思いますが、このエスティマの出来栄を考えると、やはりあれはアメリカのバッシング以外の何物でもなく、自滅感の拭えない米国自動車メーカーの衰退から、結果的に「出る杭」になってしまったトヨタの辛い状況を垣間見た感じがしました。おまけに現在トヨタが独壇場のハイブリッドシステムに対抗すべく、各メーカーが次世代の動力システムとして現実的な電気自動車の開発を急いでいますので、いつまでもエコカーの旗手を名乗るわけにもいかなくなりそうですが、そこはトヨタの底力。10年以上も前にやり遂げたように必ずや次世代のエコカーでも、我々の想像を超えた車を創りだしてくれる事でしょう。

ところで、この「ハイブリッド」の意味は「異質のものを組み合わせ一つの目的を成すものを言う」との事。ふむふむ…これはエンジンや機械にだけに使う言葉ではないですね。社会においての人間関係にも、見事に当てはまるのではないのでしょうか？「違う能力を持った人達が集まり、会社として収益を上げそれぞれの生活を守るという目的に向かって力を合わせる組織」が会社であるとするなら、まさに我々はハイブリッドな存在なのです。そう考えてみると我が国際運輸においても素晴らしい能力を持った人達が揃っていますよ。

- 安全で確実、そして省燃費な輸送技術に優れた乗務員の皆さん
- 米軍の厳しいレギュレーションを遥かに凌駕する技術を持つ梱包部のスペシャリスト
- 整備工場の工場長が教えを請いに来る程の車両整備のプロ
- 営業的センスを備え、お客様から何かと可愛がられる営業担当者
- 改善を常とし、確実な作業と社内の潤滑油的な役割までを担っている事務担当の皆さん
- 経験や知識が豊富で、人をまとめリーダーシップを取れる管理職の皆さん



どうです!! これだけの人材が我が社には集まっています。そして、それぞれの力を最大限に発揮するハイブリッドな集団になるために我々はお互いを尊重し、改善のための様々な意見を交換しましょう。それを出来る会社は、世の中が更に厳しい状況になっても生き残る事が出来ると私は信じます。

政権の交代により公共工事が激減した建設業の厳しさや、激安の外国製品に圧倒される製造業に比べれば、我々のライバルは国内の同業者のみ。安い賃金の外国人乗務員なんて絶対にお客様が認めてくださらないでしょうから、各社の条件は同じなのです。後はどれだけ「当たり前」の事をきちんと出来る」かに掛かっています。そしてそれを徹底する事で、お客様に感動して頂ける仕事を提供出来る会社になりましょう。



常務

中園嘉臣

～ 思いやりの気持ち ～

平成 22 年もすでに半ばになり、当社の決算も今月末になりました。この数年来の全世界を席卷した不景気は、都会を中心に多少よくなり始めたとの報道があります。しかし、地方に於いては景気回復の影さえ見えないのが現状です。

失業率は過去最悪の状況が続き、新卒の就職についても最悪、現在も就職していない子供達がいるとの事。ある本によれば、この状況は数年続くとも言われています。各々の会社は現状の危機を脱すべく、リストラを断行し、いろいろな方法で生き残りを図っています。

そんな状況の中、わずかながらですが、元気な会社の話しを耳にします。

時代のニーズに対応した商品を開発したユニクロ等、近場で言えばジャパネットたかた。

安い商品を提供するだけでなく、クレームに対する対応が素晴らしいとの事。新聞を見ていると、常に昨年対比何%増、何%減という売上実績が載っています。常に右肩上がりの目標を立て、それに向けて努力するのは当たり前の事ですが、色んな物が飽和状態にある日本国内に於いては、昨年対比の目標だけでは計画が立たないような気がします。

戦後、すぐにアメリカ型の経済、流行を追い求めた結果が、会社に於いては成果主義の行き過ぎであり、社会に於いては自由主義の行き過ぎが、過去にないような無残な犯罪を起こしているような気がしてなりません。

一年程前の新聞にこんなことが載っていました。大手の会社が、社内のコミュニケーションを計る為に、ある役職以上に月6万円迄の社内交際費を認めているという。

日々の仕事の中で、与えられた事を一生懸命やるのは当たり前の事です。しかし、大半の中小の会社が家にいる時間より会社の方が長い。会社とは利益を追求するだけのものであってはならないと思います。

重要な人間形成の場でもあると確信しています。後輩は先輩、上司を敬い、上司は部下、後輩を技術面だけでなく、礼儀、社会のルール等についても教えて行く。その結果として、一人ひとりが上司、同僚、お客様から信頼を受け、その結果が、実績に繋がるものと思っています。

一灯照偶という言葉があります。殺伐としたどんな世の中になろうと、一人一人が、自分自身がまわりに染まらず、礼を尽くし、思いやりの気持ちを持ち続ければ、全体が明るくなるといいます。私自身もなかなかそういう気持ちになる事は難しいのですが、そうありたいと常に思っています。





統括業務部部長

萩坂貴徳

道を維なぐ（つなぐ）

一年ほど前の話ですが、夫婦で旅行やドライブに行くという機会が少ない私は、休みに妻に誘われ、乳待坊（ちまちぼう）というところにドライブに行くことになりました。乳待坊とは平安時代、弘法大師が渡唐（ととう）の際に参詣（さんけい）したとして知られる、佐賀県山内町の霊山としても名高い黒髪山の一角に位置しており、付近には奇岩、巨岩がそびえ立ち、簡単には人を寄せ付けない雰囲気のある、神秘的なところでした。もちろん、妻は信仰心を持って私を誘ったわけではなく、噂で、きれいなところだから、「景色でも見に行こうよ」ということで、出かけたわけです。

山内町の黒髪山について少し説明を加えると、佐世保市戸尾町に黒髪山別格本山という寺院がありますが、発祥はこの佐賀県山内町の方で、約百年前に佐世保へ移築さ

れたそうです。

そして、付近に到着後、車を降りて散策を始めるのと、景色ではなく、まず、目に飛び込んできたのは、大昔の修行僧たちが一心に彫り刻んだ無数の石仏でした。私は一瞬にして目を奪われてしまいました。石仏は山の奥へ奥へと、行き先を案内するかのようには彫られておりました。ゆっくりと、それを頼りに上り進んで行くと、無数の石仏もさることながら、今、自分達が歩いているこの道や石段は、いったい誰が作ったんだと、そんな疑問がわいてきました。岩を削りだして作った階段や、ようやく人間一人が通れるだけの歩道、見るからにして五百年、六百年、いや、それ以上の歴史を感じる雰囲気で、おそらく、当時から修行僧たちが、大方百年前まで、石仏を彫る事だけでなく、次におとずれて来る修行僧たちのために巨石を掘り進み、石段を組み、そして道をならし、修行の場を作り続けてきたのでしょう。道や石段はもちろんですが、石仏にも僧の名や奉獻した方の名前さえも記してありません。僧の中には山を降りることもなく、その生涯を終えた方もいたそうです。ただ一心に、世の平和と他人に対する思いから、一生をかけて修行の場を築いていったのでしょう。

その僧侶たちが残した石段をどれだけ上り歩いて来たでしょうか、ふと見上げると、

名も無き僧侶たちが巨岩から削り出した高さ数メートルはあろうかと思われる大きな不動明王像が現れました。やっと不動明王に逢えたという事なのか、その僧侶たちが逢わせてくれたという感謝の気持ちからか、理由にははっきりとしませんが、一緒にいる妻の存在もわすれ、私は自然とこみあげてくる涙をこらえることができずして。

山の頂に立派な不動明王が祀られていても、そこに道がなければ行くことができません。険しければなおの事でありませぬ。

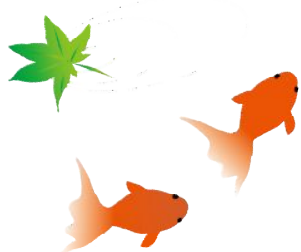
ところで、話は変わりますが、現代では「おれが、おれが」の世の中となり、名前や功績はしっかりと残したがるもので、本当に残念です。これは自身でもたまに反省をさせられます。やはり人間は陰ながら、他人のために何かをしていかなければいけません。特に、後から来る人のためには。

そういえば、当社の梱包部には感心な人がいます。全員、頭が下がるようなスタッフばかりですが、なかでもその彼は毎朝、皆が出社する前に事務所のトイレの掃除をしています。もちろん、掃除当番などはありません。皆が出社する前ですから、その姿を見かけることも少なく、まさしく道を維いできた僧侶の行いです。

私たちは企業である以上、営利目的の組織に違いはなく、数字から物を判断していかな

ければならない状況すらあります。しかし、そこには人を育てようとする愛情や同僚他、先輩や後輩を敬う心、社会的な道徳がなければ、組織は存在していきません。当社にも大勢の人が働いています。それどころか、これから先の次の世代もいます。一人ひとりが、自分の職場を大切に思い、自分の後輩や部下を正しく導き、仕事を通して人間としての成長ができるような、修行の場と呼べるような、職場の環境を作っていきましょう。

最後になりましたが、私をこの佐賀県山内町へ誘ってくれた妻へ感謝です。



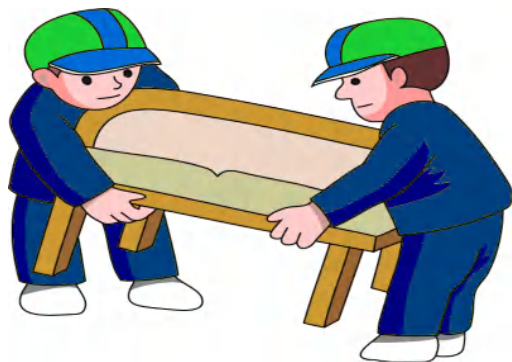
梱包部課長
森園道則

昨年の7月から約1年弱、ベースで倉庫担当として勤務してきました。それまでの現場作業とは勝手が違い、慣れない事も多く最初のうちはバタバタと過ごす日々でしたが、次第に自分なりのペースがつかめる様になりました。心に少しでも余裕ができれば周りの状況も一歩引いて見る事ができ、結果的に仕事の効率もあがるはずでした。

「忙」という字は、心を亡くすと書きます。人は忙しいと周りが見えなくながちです。イライラした様に見え、周囲が声をかけ辛い状態になります。多くの人がそうだと思います。しかし、忙しいのですから会社にとって、は良い事です。忙しい中で心まで亡くしては、ミスをしたり周囲の雰囲気悪くしてしまいます。そういう時こそ、一呼吸置き、心に余裕を作って仕事に取り組みべきだと思います。最近、梱包部に3名の新入社員が加わりました。彼らが早く仕事に慣れる様に、教える側の私達が気持ちに余裕を持ちたいと思います。

最後になりましたが米軍の方々、川田所長、一年という短い間でしたが、大変勉強させていただきました。ありがとうございます。

広田勤務となりましたが、これからもベースには毎日顔を出すつもりでいますので、今後もしよろしくお願いします。



「読書と電子書籍と私」



梱包部
藤田貴範

私は読書が好きである。

小学生の頃、図書室で江戸川乱歩の諸作品と出会った時に小説の面白さに引き込まれた。おどろおどろしい表紙、名探偵・少年探偵団そして怪人が跋扈（ばっこ）する魅力あふれる世界観。様々な場面を想像しながら読書に没頭した。それからはや二十年、相も変わらず読書が好きである。

小一時間、湯船に浸かりながら本を読む事で一日の疲れが癒される。休日の昼下がり、ソファに座って陽を浴びながら、真夜中に布団にくるまりながら。電車の中で、船の中で。銭湯の休憩所で読み、ゲレンデのレストランで読み、学生時代は授業中や試験勉強中にも読んできた。文庫本でしか購入しないにもかかわらず、部屋の本棚はいつも溢れかえっている。

そんな本好きの為、先月アップル社より

発売された「i pad」や、年末にソニーから発売予定の「リーダー」、アマゾンから発売中の「キンドル」などの電子書籍端末には少なからず食指を動かされる。

読みたい本をいつでもどこでも読める、収納スペースを気にする必要がない、入手困難な過去の作品も簡単に手に入れられる、新刊を単行本より安価で購入できる、等々多くの利点がある。

利便性だけみたら、電子書籍が優位だが、紙の本には勝るとも劣らない様々な魅力がある。面白い本がないかと書店を歩き回り、帯とあらすじに引かれて購入したら期待以上に楽しめたこと。逆につまらなかったこと。物語に没頭している時の、ページをめくる楽しみ。古くなった紙の匂い。

電子書籍と紙の本、互いの長所を活かしあい、多くの優良なコンテンツを送り出し、世の中の書痴を楽しませて欲しいものである。





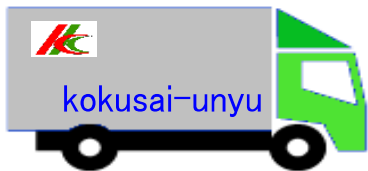
New Face 梱包部
吉田裕希

3月8日国際運輸と縁があり、晴れて新入社員として入社しました。私は、小さい頃からトラックに乗ることが夢で昨年やっと大型免許を取得することができました。

私は運送会社に勤めるのは初めてであり始めは戸惑いや不安でいっぱいでした。そもそも大型自動車を運転するのも初めてでした。全くの未経験から早くも3ヶ月になろうとしています。一日一日が私の中で毎日が勉強で覚えることがいっぱいあります。

初めて一人で福岡に行った時は始めは道も分からないのにちゃんと行けるか、事故を起こさず目的の地まで行けるのか不安でした。しかしそんな私を先輩ドライバーさんたちが優しく「ここを右折したら次は左折、次に〇〇があるから」などと道を教えてくださいました。また何か分からないことがあれば、電話してきていいからと電話番号まで教えてもらい、その時はいい先輩に出会えてよかったです。いい会社だと心から思いました。

入社して約2ヶ月してから私は梱包部に異動しました。また梱包部でも覚えることがたくさんあります。引越し作業は全く経験がなく初めは何をしたらいいかただ見ているだけでした。先輩たちはすばやく荷づくりをすませると、重い荷物でもなんなく持ち上げ、次々にトラックに積み込んでいきます。私も荷づくりを最近では任されることもあり、荷づくりしますがまだどういった物をどんな資材で荷づくりするのかあまり分からず、先輩たちにアドバイスをもらいながら一人悪戦苦闘しています。一日でも早く仕事を覚える為に、分からない事は聞いたり、また先輩たちがやっているのを見て目で覚えて、早く仕事を覚え梱包部の一員として頑張りたいと思います。



編集後記

死闘のPK戦の末、惜しくもベスト8を逃してしまったものの、侍ジャパンこと、岡田監督をはじめ日本代表選手には大変感動させられました。今回の南アフリカ大会では、深夜・早朝の放送時間であったにも関わらず、たくさんの方がテレビに釘づけになっていたようです。W杯期間中は、睡眠不足の方も多かったのではないのでしょうか。

まだジメジメとした梅雨の季節が続いていますが、夏の到来も目前のようです。夏バテしないよう、体調管理に十分お気をつけください。

(編集部)

